

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	松戸市立柿ノ木台小学校	児童生徒数	695名
テーマ	地域で取り組む危機管理体制について		
実施主体	学校が主体となって実施		
日時	令和2年11月14日（土）9：00～10：30		
会場	柿ノ木台小学校 体育館及び家庭科室		
日程 流れ・進行	1 校舎配置図の確認	9：00～	9：30
	2 防災倉庫の確認	9：30～	9：40
	3 テント設営	9：40～	10：20（体育館）
	4 振り返り	10：20～	10：30
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・教職員 <p style="text-align: right;">合計 約25名</p>		
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への配布物（学校だより 学校ホームページ） ・その他（町会長へ直接依頼） 		
参加者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がほぼ主体となって、毎年避難所開設訓練を行っている。非常時を想定し、可能な限り地域の方で運営をお願いしたい。 ・非常時を想定し、今後も訓練が必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の対応に基づいた、新しい生活様式を意識した訓練ができてよかった。 		
新しい生活様式 の下での実施に おける工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を意識して、「松戸市避難所開設・運営マニュアル」をもとに開設訓練を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 施設入口で検温、体調チェックを実施（屋外受付を検討） ◦ 健康チェックシートの記入（受付時） ◦ 体調ごとの避難場所におけるエリア分け 等 ・短時間でのミニ集会実施（感染対策を講じて） ・密にならないように（小グループでテント設置訓練を実施） ・アルコールによる手指消毒 ・参加者マスク着用 		
成果と課題	<p>○感染対策を講じながら、非常時に素早く避難所開設を行う方法を、地域の方と共有することができた。</p> <p>○感染対策を講じながら、多くの人を受け入れる知識が不足していたが、訓練によって地域の方とも新しい生活様式における避難所開設の情報を共有することができた。</p> <p>△参加した方だけでなく、地域の方がさらに広く避難所開設について意識し、情報を共有していくことに課題がある。</p>		

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立若松高等学校	児童生徒数	950名
テーマ	コロナ禍における地域と連携した教育活動の在り方		
実施主体	学校と開かれた学校づくり委員会の共催		
日時	令和2年12月18日（金） 13:20～14:20		
会場	若松高等学校 松栄館		
日程 流れ・進行	1 本校の教育活動報告	13:20～13:35	
	2 協議	13:35～14:20	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・教職員 ・保護者 ・開かれた学校づくり委員 合計 約17名 		
広報	・その他（直接依頼）		
参加者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの中であってもリモート等の方法で地域交流ができるのではないか。 ・高校生との交流を続けたい。 ・教員の交流もあるとよい。 ・地域への広報は広報紙が有効な手段だ。 		
新しい生活様式 の下での実施に おける工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・通常どおりの開催にできるだけ近い形での実施のための工夫 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 人数制限（通常30名→17名） ◦ 時間短縮（通常1時間30分→1時間） ◦ 構成の工夫（教育活動報告の中に、協議に繋がる課題を含めた） ◦ 会場の工夫（机の配置や換気） ◦ 手指消毒、マスク着用の徹底 		
成果と課題	<p>○特別支援学校との作品交流、子育てサロンオンライン、授業で作成したおもちゃ提供や保育士との対話など、様々な地域交流を深めるアイデアが出された。</p> <p>○地域の方々から、今回のテーマについて生徒にも考えさせることが有効ではないかという発展的な意見をいただくことができた。</p> <p>△出されたアイデアを具体化する中でハード面や金銭面での障壁が明確になった。実現までには時間が必要である。</p>		

「学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会」実践例

学校名	千葉県立多古高等学校	児童生徒数	268名
テーマ	多古高校の魅力を効果的に発信するには？		
実施主体	学校と学校運営協議会の共催		
日時	令和2年11月17日（火） 15：30～17：00		
会場	多古高等学校 会議室		
日程 流れ・進行	1 問題提起	15：30～15：45	
	2 意見交換（グループ）	15：45～16：35	
	3 全体共有	16：35～17：00	
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・教職員 ・その他 ・保護者 ・学校運営協議会委員 合計 約36名 		
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への配布物 ・その他（直接依頼） ・学校HP 		
参加者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用してさらに発信をする。 ・高大連携を進める。 ・地域とのさらなる連携をし、口コミでの発信も大事にしていく。 		
新しい生活様式 の下での実施に おける工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・県学校安全保健課から出されている「新型コロナウイルス感染症学校における感染症対策ガイドライン」に沿った計画を立てて実施した。 		
成果と課題	<p>○意見交換の中で出されたアイデアに、「すぐにでも取り掛かりたい」と生徒が反応し、実現に結び付けることができた。</p> <p>（Instagram による多古高生のリアルな姿の配信、「農業女子」として農業機械を自在に操る姿の配信 等）</p> <p>○例年は文化祭とセットで実施しており生徒や若い先生方は参加できないが、今回はミニ集会単独での実施だったため、参加することができ、地域の方々も喜んでいました。</p> <p>△例年のミニ集会実施形態と違った方法で実施した。来年度以降、どのような形態で実施すると効果的か、今後検討していく。</p>		